

博物館講座開催記録

2007年度 テーマ「モノにあらわれた世界観」 場所：人類学博物館学習室	
6/9 (土)	「西アフリカの織物 技術・神話・商業から見たはた織り」 講師：坂井信三 (南山大学人文学部)
6/23 (土)	「青銅器に映された多様な世界観 内陸アジア・中国・東南アジア」 講師：西江清高 (南山大学人文学部)
7/7 (土)	「星座、雨、機織り、鳥 アンデス世界における七夕の組み換え」 講師：加藤隆浩 (南山大学外国語学部)
7/21 (土)	「土偶・人面土器から見た縄文人の心」 講師：渡辺誠 (名古屋大学名誉教授)

2008年度 テーマ「信仰のカタチ」 場所：人類学博物館学習室	
6/14 (土)	「縄文時代の信仰-こころのイメージ-」 講師：長田友也氏 (南山大学非常勤講師)
6/28 (土)	「土、木、紙に寄せられる 東北の人々の信仰ごころ」 講師：クネヒト・ペトロ氏 (元南山大学)
7/12 (土)	「古代アンデスにおける信仰」 講師：渡部森哉氏 (南山大学人文学部)
7/26 (土)	「ブッシュの力が宿るモスク-西アフリカ・マリの伝統文化とイスラーム」 講師：坂井信三氏 (南山大学人文学部)

2009年度 テーマ「技術の人類学」 場所：人類学博物館学習室	
6/6 (土)	「石器技術の発展」 講師：大沼克彦氏（国士舘大学）
6/27 (土)	「縄文人の器用仕事がつくるネットワーク」 講師：大塚達朗氏（南山大学人文学部）
7/4 (土)	「土器づくりの不思議：エチオピアにおける土器の野焼き」 講師：金子守恵氏（南山大学非常勤講師）
7/18 (土)	「人類と火-古代発火法とその体験学習を手掛かりに-」 講師：岩城正夫氏（和光大学名誉教授、古代発火法検定協会理事長）




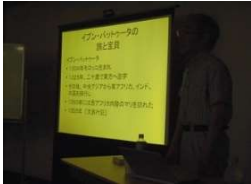



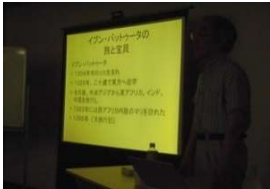
2010年度 テーマ「かくこと、よむことの人類学-図像・数字・文字を使って、人は何をしてきたのだろうか?-」 場所：人類学博物館学習室	
6/5 (土)	「文書：その仕組みと使われ方の歴史」 講師：中村雄祐氏（東京大学）
6/12 (土)	「眼差しの歴史-もうひとつの写真の見方」 講師：茂登山清文氏（名古屋大学）
7/3 (土)	「神々の辞（ことば）から国家の装置へ-漢字はどのようにして生まれたのか-」 講師：西江清高氏（南山大学人文学部）
7/10 (土)	「かくこと、よむことのひらいてきた世界」 講師：坂井信三氏（南山大学人文学部）

2011年度 テーマ「道具とヒトをむすぶもの」 場所：人類学博物館学習室	
5/28 (土)	「フネと人間のカラダ-巨大民具と身体の問題-」 講師：後藤明氏（南山大学人文学部）
6/11 (土)	「道具から考える暮らしの歴史」 講師：久保禎子氏（一宮市博物館）
6/25 (土)	「創造のための工夫-あるいは道具人類学-」 講師：小林繁樹氏（国立民族学博物館）
7/9 (土)	「カンボジアの土器作り-考古学から民族事例へのアプローチ-」 講師：黒沢浩氏（南山大学人文学部）

2014年度 テーマ「咲くやこの花—花をめぐる人の歴史」 場所：南山大学R棟R45教室	
6/7 (土)	「～花と再生する生命～ 古代エジプト人の大いなる花園」 講師：中野智章氏（中部大学）
6/21 (土)	「～あくなき花への情熱～ 国を越え海を越えるプラントハンター」 講師：西田佐知子氏（名古屋大学博物館）
7/5 (土)	「～百花良薬～ 花と本草学、そして薬効」 講師：伊藤恭子氏（内藤記念くすり博物館）
7/19 (土)	「～花の図像学～ キリスト教の野辺に咲く花々」 講師：大森正樹氏（南山大学人文学部）

2015年度 テーマ「イメージをめぐるヒト・モノ・カタチ」 場所：南山大学R棟R57教室	
5/30 (土)	「仮面が生み出すイメージの世界—アフリカの大地から考える」 講師：吉田憲司氏（国立民族学博物館）
6/13 (土)	「古代アンデスの図像の世界—意味と構造」 講師：渡部森哉氏（南山大学人文学部）
6/27 (土)	「南島の語り—オセアニアの民族造形物にまつわるもの語り」 講師：後藤明氏（南山大学人文学部）
7/11 (土)	「織りこまれる布の世界—東西インドネシアの布が語る人々の心象風景」 講師：吉田裕彦氏（天理大学附属天理参考館）

2016年度 テーマ「交易をめぐる4つの話題」
場所：南山大学R棟1階会議室

6/4 (土)	<p>「宗谷海峡を越えて —博物館資料と近世末期の古文書からかんがえるアイヌ民族の交易活動—」 講師：出利葉浩司氏（北海道博物館）</p> <p>【概要】「宗谷海峡を越えて—博物館資料と近世末期の古文書からかんがえるアイヌ民族の交易活動」をタイトルとして、罨などの博物館資料や文書資料などのデータをふまえてアイヌ民族の交易についてお話していただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6/11 (土)	<p>「謎の航海民・ラピタ人の交易システム—海の世界からみる適応戦略—」 講師：石村智氏（東京文化財研究所）</p> <p>【概要】「謎の航海民・ラピタ人の交易システム—海の世界からみる適応戦略」をタイトルとして、かつて「海人」としてオセアニアに生活していたラピタ人の交易について、考古学的な視点から遺跡の発掘事例をふまえてお話していただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6/18 (土)	<p>「交易する人々・漁をする人々—伊勢湾岸の近世史料で難破船を追う—」 講師：林順子氏（南山大学経済学部）</p> <p>【概要】「交易をする人々・漁をする人々—伊勢湾岸の近世史料で難破船を追う—」をタイトルとして、近世史料をひもとき、難破船処理に関する問題と対処についてお話していただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
6/25 (土)	<p>「寶貝通貨から見た西アフリカ内陸地方の交易と市場」 講師：坂井信三氏（南山大学人文学部）</p> <p>【概要】「寶貝通貨から見た西アフリカ内陸地方の交易と市場」をタイトルとして、寶貝の貨幣として歴史、そして西アフリカ内陸において寶貝通貨がどのような特性を持っていたかについてお話していただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

2017年度 テーマ「考古学を超える4つのアプローチ」
場所：南山大学R棟1階会議室

6/3 (土)

「先史時代のコスモロジーに迫る：天文の考古学」
講師：後藤明氏（南山大学人文学部）

【概要】天文現象と古代遺跡の関係性について、天文学の基礎知識からその学問の歴史、様々な研究事例に触れていただきながら、お話していただきました。



6/17 (土)

「地震考古学で21世紀の大地震を考える—名古屋も激しく揺れるのか—」
講師：寒川旭（産業技術総合研究所）

【概要】活断層研究の第一人者であり、地震考古学を提唱した寒川旭（さんがわあきら）先生に、土地や文書に残された地震の記録から読み解く地震について、わかりやすく楽しいイラストを交えてご講演いただきました。



7/1 (土)

「古人骨と考古学」
講師：谷畑美帆（明治大学黒曜石研究センター）

【概要】古人骨に見られる骨病変から、過去の社会や生活様相に関する研究をご専門とされている、谷畑美帆先生に、小さな骨片からでも、過去を復元する重要な情報を得られることなど、多くの事例をもとにご紹介いただきました。



7/15 (土)









「水中考古学による蒙古襲来への挑戦—元軍船を求めて—」
講師：池田榮史（琉球大学法文学部）

【概要】琉球大学法文学部教授で、水中考古学がご専門の池田榮史先生にお越しいただき、危険と隣り合わせで行われる水中考古学の調査についてや、水中考古学のこれからの可能性についてお話いただきました。







2018年度 テーマ「身体性の人類学」

場所：南山大学R棟1階会議室

5/26 (土)	<p>「縄文・弥生時代の装身と通過儀礼—イレズミと耳朶伸長にもとづいて」 講師：設楽博己（東京大学大学院）</p> <p>【概要】日本考古学の中でも、縄文・弥生時代の社会と文化に関する研究をご専門とされている、設楽博己先生に、縄文時代の土製耳飾り、抜歯人骨、土偶から耳朶伸長、抜歯、イレズミの習俗など、縄文時代の通過儀礼についてご紹介いただきました。土製耳飾りについては、量・種類の多さを親族組織の編成をもとにご説明いただきました。</p>  
6/9 (土)	<p>「生物から学ぶヒトの筋骨格系の機能形態学」 講師：藤原慎一（名古屋大学博物館）</p> <p>【概要】機能形態学、解剖学、古脊椎動物学を専門とされている、藤原慎一先生に関節の可動域や筋のつき方による姿勢の分類などについて、実際に動物の骨を使用しながら、講義していただき骨のカタチから動物の生態を解明するプロセスについてご紹介いただきました。</p>  
6/16 (土)	<p>「身体で見る異文化—「全盲」をフィールドワークする」 講師：広瀬浩二郎（国立民族学博物館）</p> <p>【概要】日本宗教史、触文化論をご専門とされ、ユニバーサル・ミュージアムの実践的研究に取り組んでいらっしゃる広瀬浩二郎先生に、著書の表紙に施されたこだわりや、視覚に頼らない身体動作についてご自身の経験を交えながらご説明頂きました。</p>  
7/14 (土)	<p>「人はどう老いるのか？文化人類学から見るエイジング」 講師：菅沼文乃（南山大学人類学研究所）</p> <p>【概要】古人骨に見られる骨病変から、過去の社会や生活様相に関する研究をご専門とされている、菅沼文乃先生に、小さな骨片からでも、過去を復元する重要な情報を得られることなど、多くの事例をもとにご紹介いただきました。</p>  

2019年度 テーマ「儀礼×考古学」

場所：南山大学R棟1階会議室

6/8 (土)	<p>「絵画から見える弥生時代」 講師：黒澤浩(南山大学人文学部)</p> <p>【概要】弥生時代の考古学をご専門とする黒澤先生に弥生時代の絵画表現について講義していただきました。考古学の視点から精神世界、儀礼表現について語ることはできるのか、描かれている絵にはどのような意味があるのかに関して、多くの事例の紹介とともに詳しく説明していただきました。</p> 
6/22 (土)	<p>「縄文時代の土偶と儀礼」 講師：長田友也(中部大学)</p> <p>【概要】縄文時代の精神文化、磨製石器の研究をご専門とする長田先生に縄文時代の土偶について講義していただきました。土偶にはどのような地域差、性質が見られるのか、行われたとみられる儀礼の解釈とその根拠、土偶と土鈴の関係性などを、様々な視点から説明していただきました。</p> 
6/29 (土)	<p>「埴輪からみた王の儀礼」 講師：若狭徹(明治大学文学部)</p> <p>【概要】古墳時代をご専門とする若狭先生に古墳にみられる埴輪の種類、変遷、導き出される儀礼の様子に関して講義していただきました。人物埴輪の出現から、人物埴輪の性別、役職、群像の意味などを若狭先生のフィールドである群馬県古墳を中心に、詳しく説明していただきました。</p> 
7/13 (土)	<p>「祭祀遺跡としてみた伊勢神宮～神宮起源を考古学から探る～」 講師：穂積裕昌(三重県埋蔵文化財センター)</p> <p>【概要】古墳時代の埋葬と祭祀、伊勢神宮の創祀、埴輪、木製品の研究をご専門とされる穂積先生に、伊勢神宮の起源に関して講義していただきました。伊勢神宮の起源が現在どのような文献を基に考えられているのか、考古資料からはどういったアプローチができるのかを具体的な遺跡、資料の情報から説明していただきました。</p> 

2020年度 テーマ「世界の考古学1—西アジア・メソアメリカ—」 Youtube オンデマンド配信	
2020年12月 23日(水) ～2021年1月 7日(木) 4講座オンデ マンドー齊 配信	「西アジアの歴史時代を発掘する—イラクとレバノンの 最新調査成果から—」 講師:西山伸一(中部大学人文学部)
	「エジプト最古の階段ピラミッドはなぜ造られたのか」 講師:中野智章(中部大学国際関係学部)
	「新大陸文明のはざまを掘る～中米ニカラグアを中心に～」 講師:南博史(京都外国語大学国際貢献学部)
	「オルメカからマヤへ」 講師:伊藤伸幸(名古屋大学人文学研究科)

2021年度 テーマ「世界の考古学2」 オンライン (Zoom) LIVE配信	
6/5 (土)	「オセアニア航海民の海と宇宙」 講師:後藤明(南山大学人文学部)
6/12 (土)	「アンデス古代国家の考古学」 講師:渡部森哉(南山大学人文学部)
6/19 (土)	「中国初期王朝誕生の考古学」 講師:西江清高(南山大学人文学部)
6/26 (土)	「ホモ・サピエンスの起源とヨルダン砂漠の岩陰遺跡」 講師:門脇誠二(名古屋大学博物館)

2022年度 テーマ「南山大学の研究者」
会場対面・オンライン ハイブリッド開催

「統合的人類史学の構築：考古・人類学データの総合的検討」
講師：中尾央(南山大学人文学部)

【概要】南山大学人文学部の中尾先生に、縄文、弥生、古墳、そしてヨーロッパの考古資料に基づくデータの統合や比較について講義していただきました。

6/11 (土)



「台湾の海女（ハイルー）とテングサの採集・加工・流通」
講師：藤川美代子(南山大学人文学部)

【概要】南山大学人文学部の藤川先生に講義していただきました。台湾における海女の歴史、テングサの種類や流通、テングサが最終的にどこに行きつくのかの分析を詳しく説明していただきました。

6/18 (土)



「愛知県南知多町天神山遺跡と東海地方の縄文時代」
講師：上峯篤史(南山大学人文学部)

【概要】南山大学人文学部の上峯先生に講義していただきました。東海地方の縄文土器や人の移動について、天神山遺跡を中心に土器の胎土分析やそこから分かることを詳しく説明していただきました。

6/25 (土)



「エチオピアのイスラーム聖者の足跡を求めて」
講師：石原美奈子(南山大学人文学部)

【概要】南山大学人文学部の石原先生に講義していただきました。日本とエチオピアの関係、石原先生の研究の原点にはじまり、イスラーム聖者について詳しく説明していただきました。

7/2 (土)



2023年度 テーマ「研究の魅力を語る」 場所：南山大学R棟R49教室	
6/17 (土)	<p>「女が作るモノでなりたつ社会」 講師：後藤 明 先生（南山大学人類学研究所）</p> <p>【概要】インドネシアの土器制作やソロモン諸島の貝ビーズ製作で独自の社会をつくる、海に囲まれて暮らす人々についての興味深いお話でした。</p> 
6/24 (土)	<p>「「中国」文明はどのように形成されたのかー地理考古学的な視点から考える」講師：西江 清高 先生（南山大学名誉教授）</p> <p>【概要】なぜ中原が中心となったかを、20世紀の研究の流れとともに解説いただいたとてもスケールの大きなお話でした。</p> 
7/8 (土)	<p>「西アフリカのムスリムたちの歴史ー墓碑とモスクから考えるー」 講師：坂井 信三 先生（南山大学名誉教授）</p> <p>【概要】ムスリム(イスラム教徒)のお墓に添える文章が書かれた石碑と、イスラム教の礼拝堂のモスクなどの貴重なフィールドワークの成果を、現地の文化と共に分かりやすくお話いただきました。</p> 
7/22 (土)	<p>「日本最古のブタ？ー沖縄のブタ食文化の起源ー」 講師：新美 倫子 先生（名古屋大学博物館）</p> <p>【概要】沖縄の最古のブタの可能性のある野国貝塚出土ブタや北海道・台湾などでの調査や沖縄の食文化、考古学のお話でした。</p> 